

臺灣ニ於ケル????嚙仿謨麻酔ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38682

十全會雜誌

(第貳拾貳號)

原 著

○臺灣ニ於ケル嘔囉仿謨麻醉ニ就テ

陸軍一等軍醫 野口詮太郎

(北臺)

余ハ本島駐屯兵ノ嘔囉仿謨麻醉狀態ヲ知ラムト欲シ明治三十三年已後臺北衛戍病院ニ於テ聊カ之レガ研究ニ從事セリ即チ頃日其數百有餘名ニ達セシテ以テ各種統計ヲ試ミ之レヲ内地駐屯兵ニ比シ又本島土人ノ麻醉狀態ニ比スルニ多少趣味ナキニアラザルヲ以テ茲ニ其成績ヲ報告セムトス

茲ニ麻醉ト稱スルハ單純麻醉ニシテ嗅用器ハエスマルヒ式ヲ用ヒタリ嘔囉仿謨ハ最初ハ數種ヲ混用セシモ中頃ヨリ英國ダンカン製ヲ用ヒタリ

(一) 麻醉迄ニ要セシ分量及時間

患者百名ニ對スル總時間八時間〇三分ニシテ一人平均四分四十九秒八ヲ要セリ總分量ハ六三〇〇瓦ニシテ一人平均六三瓦ヲ要セリ即チ左表ノ如シ

人員	總時間	總分量	平均
一〇〇	八時〇三分	六三〇瓦	四分四十九秒、八
			六、三瓦

平均數ニ於テ右ノ如クナレヒ之レヲ細別スルキハ最短一分時間ニシテ最長十分時間ナリ即チ左ノ如シ(注意)患者數百名ナルヲ以テ員數ハ直ニ%ニ相當ス己下全シ)

一分乃至二分時ニシテ麻酔セシモノ 六名

三分乃至五分 七十三名

六分乃至八分 十六名

十分 五名

分量ノ細別ハ最少量一〇瓦ニシテ最多量二十八瓦トス即チ左ノ如シ

一瓦ニシテ麻酔セシモノ 一名

三瓦乃至五瓦 四十七名

六瓦乃至八瓦 三十五名

十瓦乃至十三瓦 十六名

二十八瓦 一名

(二) 麻酔中ノ時間及分量

總時間	分量	平均	一分時ノ使用量
時 一	分 一	分 一	分 一

四十一時二十三分

一二四五瓦

二四分四九秒八

一二瓦四五

〇、五〇一

麻醉中ノ時間及ヒ分量ハ手術ノ種類及ビ目的ニ由リ差異アルハ勿論ニシテ余ガ施行セシ百名ノ患者横痃五十七、痔核二十八、其他十五モ亦最モ短キハ一〇瓦一分時間ニシテ既ニ麻醉シ三分時間ニシテ手術ヲ終ヘタルアリ又手術時間ノ一時間ニ及ビ四〇、〇瓦ノ大量ヲ使用セシモノアリタリ而シテ其每一人平均前表ノ加ク二十四分五十秒ト一二、四五瓦ニ一分時間ノ使用量〇、五瓦ヲ以テ麻醉ヲ持續セリ猶之レテ細別スルトキハ左ノ如ク十五分乃至卅分ト一〇、〇瓦乃至二〇、〇瓦其多數ヲ占ム

五分已内

五名

六分乃至十五分

十七名

十六分乃至廿分

二十三名

二十一分乃至卅分

三十三名

三十一分乃至四十分

十二名

四十一分乃至五十分

六名

五十一分乃至一時間

四名

分量ノ細別ハ

一瓦乃至五瓦

十二名

六瓦乃至十瓦

二十八名

十一瓦乃至二十瓦

四十九名

二十一瓦乃至三十瓦

九名

三十一瓦乃至四十瓦

二名

(三) 嚼囉仿謨全吸入時間及分量

前二項ニ溯リ全吸入時間及ヒ分量ヲ通算スルニ左表ノ如ク一人平均吸入時間約三十分時間ニ

シテ分量約十九瓦ヲ要セリ

時	間	分	量	時	每	一	人	平	均	量
四十九時二十六分			一八七五瓦	二九分三九秒六						一八瓦七五

(四) 脉搏及呼吸ノ關係

呼 脉	吸 搏	合	施	用	直	前	合	麻	醉	中
		計	一人	平均	計	一人	平均	計	一人	平均
		八二二九	二二九七	八一、二九	二二、九七	七三二二	二四二〇	七三、二二	二四、二〇	七三、二二

呼吸ハ興奮期ニ於テハ一ハ嘔囉仿謨蒸氣ノ爲メ鼻粘膜中ノ三叉神經末梢擴布ノ直接刺戟ニ因リ一ハ肺臟中ノ迷走神經末梢擴布ノ刺戟ニ由リ反射的ニ呼吸中樞ヲ興奮セシメ一時不整トナリ其數増加スト雖モ麻醉期ニ至レバ漸次反射ノ減弱スルト同時ニ呼吸中樞ノ麻醉ニ由リ多クハ呼吸緩徐トナリ且ツ淺表トナルヲ常トス然ルニ余ガ調査ニ係ルモノハ前表ニ於テ見ルガ如ク呼吸數二十三回ヨリ二十四回ニ増加シ數學上ニ於テハ却テ實際ニ反スル成績ヲ呈セリ然レモ這ハ百人ニ對スル全呼吸數ヲ通算シ之レヲ每一人ニ平均セルノ結果ニシテ今其増減ヲ回數ニ據ラズシテ單ニ患者ノ員數ヲ以テ比較スルモハ左表ノ如ク減シタルモノ五十三%ニシテ増加シタルモノ三十八%ナルヲ知ル

呼 吸	數	増シタルモノ	減シタルモノ	備	考
-----	---	--------	--------	---	---

十息 已下	二十五名	五十二名	表外増減ナキモノ九名アリ
十一息乃至廿息	十名	一名	
廿一息乃至卅息	三名	一名	
計	三十八名	五十三名	

又何故ニ如斯成績ヲ見ルニ至リシヤハ増シタルモノハ其増加ノ度著シク三十八名ニ對スル通計三百四十八息ニシテ一人平均九息、七ニ當リ減シタルモノハ其減少ノ度少ク五十三名ニ對スル通計二二二息ニシテ一人平均四息、二ニ當ルヲ以テナリ換言スレバ増スモノハ多ク増シ減ズルモノハ僅カニ減ズルガ故ナリ猶麻醉前後ニ於ケル呼吸ノ關係ヲ表出スレバ左ノ如シ

呼 吸	數	施 用	直 前	麻 醉	中
十五息已下ノモノ			二名		三名
十六息乃至二十息ノモノ			三十九名		四十一名
二十一息乃至二十五息ノモノ			二十七名		三十一名
二十六息乃至三十息ノモノ			二十七名		十九名
三十一息乃至三十五息ノモノ			四名		七名
三十六息乃至四十息ノモノ			一名		七名
四十一息已下ノモノ			一名		二名

脉搏ハ嘔囉仿謨蒸氣ノ血管運動中樞殊ニ直接ニ心臟ノ筋肉的運動裝置ニ作用シ動脈性血管ノ強實性減少シ血壓低降シ心臟ノ勢力減衰シ血流徐除トナリ爲メニ脉搏ノ遅徐且ツ幽微ヲ致ス

モノナリ余ガ調査ニ係ルモノモ亦前表ノ如ク八十一至ヨリ七十三至ニ減ゼリ然レモ是亦呼吸ト全シク全然減少スルモノハミニアラズシテ十%ノ増加シタルモノト二%ノ増減ナキモノアリテモ真正ニ減少シタルモノハ八十八%トス其細別左ノ如シ

脈 搏 數	増シタルモノ	減シタルモノ	備 考
十至已下	五名	四十九名	表外増減ナキモノ二名アリ
十一至乃至二十至	一名	三十名	
二十一至乃至三十至	三名	四名	
三十一至乃至四十至	一名	四名	
四十一至已下	一名	一名	
計	十名	八十八名	

又麻醉前後ノ脈搏數ヲ細別表出スレバ左ノ如シ

脈 搏 數	施 用 直 前	麻 醉 中	備 考
四十至乃至五十至	二名	二名	
五十一至乃至六十至	十四名	十七名	
六十一至乃至七十至	十四名	三十名	
七十一至乃至八十至	二十二名	三十四名	
八十一至乃至九十至	十四名	十一名	
九十一至乃至百至	十四名	四名	
百一至已上ノモノ	四名	二名	

(五) 駐臺兵、内地兵、軍役志願者トノ麻酔量比較
 余ガ調査成績ヲ明治廿六年中河野豐藏君ガ東京衛戍病院ニ於テ調査セラレタル成績ニ比スル
 ニ左表ヲ得タリ

麻酔ニ至ル迄ノ分量及時間 (甲)

人員	總時間	總分量	每一人平均	
			時間	分量
一一九名	一四時〇七分	一〇五二瓦	七分〇七秒	八瓦〇七
一〇〇名	八時〇三分	六三〇瓦	四分四九秒	六瓦三〇

東京衛戍病院
 河野豐藏
 台北衛戍病院
 野口詮太郎

麻酔中ニ要セシ時間及分量 (乙)

人員	總時間	總分量	每一人平均	
			時間	分量
一一九名	四二時二三分	一四四一瓦	二一分一一秒	〇、五六六瓦
一〇〇名	四一時二三分	一二四五秒	二四分四九秒	〇、五〇一瓦

河野豐藏
 野口詮太郎

全吸入時間及分量

人員	總時間	總分量	每一人平均	
			時間	分量
一一九名	五六時三〇分	二四九二瓦	二八分一六秒〇	二〇瓦七七
一〇〇名	四九時二六分	一八七五瓦	二九分三九秒六	一八瓦七五

河野豐藏
 野口詮太郎

上表ニ依テ見ルルハ麻醉ニ至ル迄ノ時間及ヒ分量、麻醉中一分時間ノ持續分量、全吸入時間、每一人平均分量ニ於テ歴然差異アルヲ知レリ則チ彼レハ七分〇七秒時ト八瓦〇七ノ量ニテ麻醉ヲ呈シ此ハ四分四十九秒ト六瓦三ノ量ヲ以テ既ニ麻醉ヲ呈シ其間二分十八秒ト一瓦八ノ差ヲ呈セリ一分時間ノ持續分量、全吸入時間、每一人平均分量亦彼レニ多ク此ニ少シ蓋シ嚙囉仿謨麻醉ハ個人ノ特性、酒量、時ノ狀態等ニ依テ差異アルヲ以テ之等ノ調査ヲ遂行シテ後比較統計ヲ爲スヲ適當ナリトスト雖此之等ノ調査ハ複雜ニシテ却テ誤リ易キヲ以テ此比較ヲ除キ假リニ之等ノ關係彼此相均シキモノト見テ何故ニ麻醉量其他ニ於テ如斯差異ヲ見ルニ至リシヤノ疑問ニ對シテハ元ヨリ直ニ明確ナル答解ヲ爲ス能ハズト雖此恐ラクハ氣候ノ關係其主因ヲ爲スニアラザルナキカ余ハ前ニ本島守備兵血球調査報告中ニ記セシカ如ク本島渡航者ハ一般ニ風土氣候ノ關係ヨリシテ身體ノ諸機官弛緩スルヲ以テ從ツテ嚙囉仿謨ニ對スル感受性亦強マリ比較的短時ニシテ麻醉スルモノニアラザルナキカ今茲ニ小實驗ナガラモ此想像的議論ヲ擁護シ得可キ事實アリ則チ軍役志願者(土人)ノ麻醉成績之ナリ請フ左表ヲ見ヨ

人員	麻醉		中		全		一分時間	使用量
	時間	分量	時間	分量	時間	分量		
内地兵平均	七〇・七 <small>分秒</small>	八・〇七	二二・二 <small>分秒</small>	二二・〇〇	二六・六 <small>分秒</small>	二〇・七	〇・五五六	東京衛戍病院 河野豐藏
一駐台兵平均	四四・九	六・三〇	二四・四九	二二・四五	二九・九六	一八・七五	〇・五二	台北衛戍病院 野口詮太郎
土人六名平均	四四・〇	五・六七	三〇・一〇	一四・八三	三五・〇〇	二〇・五	〇・四八九	全人

右表ニ就テ見ルカ如ク内地兵卒ト土人トノ間ニ於テ麻醉時間及ヒ分量ノ關係著シキ差異ヲ呈シ又駐臺兵ト土人ノ間ニ於テ僅カニ差ハアレモ殆ンド相近キ時間ト分量ヲ得タリ則チ本島土人壯丁ハ四分四十秒ト五六七瓦ヲ以テ既ニ完全麻醉ヲ呈セシテ知ルベシ元ヨリ僅カニ六名ノ統計ヲ以テ敢テ斷定スルコト能ハザルハ勿論ナリト雖モ而カモ駐臺兵ノ麻醉量并ニ時間ノ關係甚ダ相近キヲ以テ見レバ前述ノ如ク内地温暖ナル所ヨリ熱地ニ轉ジタルガ爲メ所謂風土服合ノ結果土人ト同一ノ時間ト分量ヲ以テ既ニ麻醉スルモノナルコトヲ推知スルニ難カラザルガ如シ猶土人ノ麻醉狀態ハ今將ニ研究中ニ屬スルヲ以テ後日更ニ報告スル所アラムトス

五 結 論

- (一) 臺北駐屯諸兵ノ嚶囉仿謨麻醉ニ至ル迄ノ時間及ヒ分量ハ四分四十九秒ト六・三瓦ニシテ手術時間每一人平均二十四分四十九秒ニ對スル分量十二・四五瓦ナリ故ニ其全吸入時間二十九分三十九秒六ニ對スル分量十八・七五瓦ナリ又麻醉中一分時間〇・五〇一瓦ノ嚶囉仿謨ヲ以テ麻醉ヲ持續シ得タリ
- (二) 麻醉直前ハ呼吸脈搏共ニ増加シ之レニ反シテ麻醉中ハ呼吸脈搏共ニ減少ス
- (三) 臺北駐屯兵ノ麻醉ニ至ル分量ト時間トチ内地兵ニ比スルニ七分七秒ト八・〇七瓦(内地兵)ニ對スル四分四十九秒ト六・三瓦ニシテ二分十秒ト一・八瓦ノ差アリ又臺北駐屯兵ト軍役志願者土人トチ比スルニ四分四十九秒ト六・三瓦駐臺兵ニ對スル四分四十秒ト五六七瓦ニシテ殆ト同一ノ分量ト時間ヲ得タリ

(四)已上ノ事實ハ恐ラクハ駐臺兵ハ住テ熱地ニ轉シタルガ爲メ所謂風土服合ノ結果嘔囉仿謨ニ對スル感受性亦強マリ爲メニ比較的少量ト少時間トヲ以テ麻醉スルモノナラムカ
終リニ臨ミ村井軍醫正ノ指導ヲ與ヘラレタルコトヲ謹謝ス

○病的結石ニ對スル「ロエントゲン」氏X放射線ノ
診斷的價值ニ關スル一研究

Eine Studie ueber den diagnostischen Werth der Röntgen'schen

X-Strahlen fuer die pathologischen Concrementen. (承前)

醫學得業士 鈴木寛之助述

(保世佐)

茲ニ報告セントスルモノハ生來極メテ強壯體格偉大榮養佳良ナル水兵ノ項部皮下ヨリ摘出セル變生物ナリトス今其病歴并ニ摘出シ得タル變生物ニ就テ其大畧ヲ述ヘン
海軍二等水兵カ、生來強壯ニシテ記憶スベキ疾患ニ罹リシコナシ海軍入籍後モ亦極メテ強壯ニシテ病ヲ患ヒシコナシ兩三年前偶然項部ニ拇指頭大ノ腫瘤ヲ生シタルモ疼痛ナキヲ以テ意ニ介セズ放置セシガ日ヲ經ルニ從ヒ稍々増大ノ傾アリ醫治ヲ受ケ截開ニ依リテ該腫瘤一時縮小シ殆ント消散セリト思ヒシモ數ヶ月ニシテ再ヒ舊態ニ復シ更ニ増大シテ鳩卵大ニ達シタレト自覺的毫モ變化ヲ感ゼザルヲ以テ放置シ敢テ治ヲ受ケズ然ルニ約一年前ヨリ其腫瘤著シ